

京三中・山城高同窓会 会誌

双ヶ丘



第4号 2010/10/15

バドミントン部

手話部

柔道部

卓球部

放送部

ダンス部

茶道部

写真部

山岳部

ラグビー部

ハンドボール部

イラストレーション部

イラストレーション部はマンガ甲子園
に出場して審査員長賞に輝いた。表紙
の絵はその作品である。

詳細は本誌本文参照。

母校だより

クラブから

◆ バドミントン部

今年のバドミントン部は、女子生徒ばかりの37名で構成されています。3年生は6名で既に引退し、現在は31名で練習をしています。コートが十分に確保できないので様々な工夫をしています。8月には、



例年どおり、岡山県にある国体でも使われた落合運動公園内にある白梅体育館で合宿をしました。コート10面を貸し切りで使用でき、普段学校では、狭くてできないような練習をして帰って来ました。

11月3日には、新人戦の団体戦の予選が山城高校の体育館で行われます。是非応援してください。

◆ 手話部

手話部には、現在、1年8名、2年4名、3年3名の計15名の部員が在籍し、毎週水曜日に行うミーティングの時間を中心に活動しています。今は、11月に実施される手話弁論大会に向けての取り組みを進めています。これまでも聴障アッセンブリーや夏休みの宿泊交流学習会等で自分の意見



をまとめ、発表することを経験してきましたが、今回はすべて手話で表現するという事で、いろいろと苦労している様子が窺えます。手話部と言ってもはじめから手話が得意な人ばかりではなく、日常的にはほとんど使う機会がない生徒もいます。発表原稿の作成以上に、そ

れをどのように手話で表現するのかを顧問の助言を参考に部員相互で助け合いながら各自取り組んでいるところです。個性豊かな部員が揃い、和気藹々と活動しているところが手話部の良さでもあります。

(顧問 櫻井秀樹)

◆ 柔道部

前々校長先生の学校の運営方針に「文武両道の生徒をそだてる」というのがあった。「文が学問を意味するところは、衆人の意見の一致するところで元校長先生の論に異議はない。

一方「武」はどうであろうか。元校長先生は、「スポーツ」の比喻で「武」を使われたのであろうし、慣用的な比喻として定着しているようにも思える。

しかしちょっと待って欲しい。そもそも、「文武両道」という勇ましいフレーズは、源頼朝が家臣に対して奨励した「文武二道」という表現にそのルーツがあると聞く。平家によって関東に追放された頼朝は、成長し、やがて関東武士の頭領となる。家臣団は、文字通り、関東の荒くれ武士達であった。そこで「武術」だけでなく、「学問」もせよと唱えたのだという。

この語源から考えれば、「武」が「武道」(もののふのみち)を意味するのは明白である。我が山城高校にこの条件に当てはまる部活動は三つのみ、すなわち「弓道部」「剣道部」、そして我が「柔道部」である。

柔道の創設者、嘉納治五郎先生は、「柔道の精神的支柱は、『精力善用・自他共栄』にあり。」と喝破された。戦国時代、織田信長が戦に「鉄砲」という精神性の全く見られない手段を多用するまでは、例え命のやりとりの中でも、一騎打ちで名乗り合い、相手を重んじるという精神は生きていたのである。

「武術」が殺し合いの手段でなくなった江戸時代以降(幕末期を除いて)、「武」は人の道として、教育の手段となっていく。「精力善用・自他共栄」の芽生えである。

縁あって、30年以上柔道の指導者をさせてもらっている。前々任校では、京都府の体重別大会で優勝し、さらに現役で国立大学に合格した生徒がいた。もちろん、礼儀正しい思いやりのある生徒に育って

くれた。その生徒以外にも、文字通り「文武両道」を体現してくれた生徒はたくさんいる。「スポーツができ、勉強ができる」、それだけでは決して「文武両道」ではない。

さて、やっと本題である。山城高校の柔道部は団体戦のメンバーが組めるかどうかという少人数の状態がここ数年続いている。さらに、入部してくる生徒の大部分が、高校から柔道を始めたという状態である。その結果、試合では段外の部や団体戦でも二部と呼ばれる少し力の劣るチームが出場する試合でしか活躍はできていない。私学の強豪校も出場する大会では、ほとんど勝ててはいない。しかし、高校から柔道を始めた生徒が、シード選手を破ったり、とても高校のうちに有段者にはなれないと思っていた生徒が、早々に初段を取得したりと、他校の生徒から見れば、不思議な現象が時々見られる。山城高校の柔道部の創立から五十数年、これが伝統というものであろうかと思う。

最後に、昨年度卒業した4人の進路を紹介しよう。「大阪市立大学」「滋賀県立大学」「立命館大学」「東海大学」。推薦を含め、全員一回の入試で合格を決めている。自分の力をよい方向に向けたこと・自分と他人を大切にしたこと、これらのことが彼らを成長させたと確信している。

「文武両道」は我が柔道部にこそ有れ。

(顧問 柴田幸雄)

◆ 卓球部

9月8日現在、部員は男子2年生6名。男子1年生5名。合計11名です。平日放課後、午後3時30分頃～午後5時か、午後5時～午後6時30分頃、土曜日午前8時30分～12時30分頃を基本として体育館2F格技場(尚武館)で練習をおこなっています。格技場は柔道部・剣道部との3部で共同使用のため、格技場の半面を使って卓球台3台を出して練習しています。



4・5月の春季卓球選手権大会の敗者復活戦で勝ち上がり7月、兵庫県、グリーンアリーナ神戸で行われた第64回近畿高等学校卓球選手権大会男子団体の部に出場。結果は、残念ながら一回戦敗退でした。9月4日に行われた秋季卓球選手権大会府下一次戦では、京都文教・城陽・洛東高校に勝ち10月に行われる二次戦に進出。男子ダブルスで2年・1年生のペア1組も二次戦進出。来週末には、男子シングルス的一次戦が太陽が丘体育館で行われます。

現在、毎日、秋季大会一次戦シングルス・二次戦に向けて日々練習を行っています。

◆ 放送部

9月8日現在、部員は女子3年生2名。女子2年生1名。合計3名です。

平日、月～金のうちの2～3日程度、午後0時45分頃～午後1時5分のお昼の放送

や午後3時40分頃～午後6時頃を基本として本館2F北側の放送室で練習活動をおこなっています。学校行事の文化祭（山城祭）や生徒総会など放送関係の企画・行事の場合アナウンスや放送機器の設置・調整・撤収等にあたっています。6月のNHK杯高等学校放送コンテスト京都大会では、ラジオドラマ部門3位、ラジオドキュメント部門5位、アナウンス部門で3年生1名が6位入賞して、アナウンス部門で7月に実施された東京の全国大会に出場しました。

これからは2年生が活動の主役となり、10月末の京都総合文化祭放送部門出場や体育祭の放送活動などを行って行く予定です。

◆ ダンス部

こんにちは。ダンス部の顧問の河村と申します。私にはダンスの経験もなく、実技的な指導はしてやれないのですが、前任者の後をうけて6年目になります。ダンスといってもいわゆる創作ダンスではなく、現代の若者の好む「ブレイク」や「ヒップホップ」と言われるストリー





ト系のものです。部員数は年々多くなり、3年生12人、2年生16人、1年生43人、合計70人を越える大きなクラブになりました。先輩から後輩へ、ダンスの技術だけでなく、チームワークや礼儀、ルールを守ることの大事さなど様々なことが伝えられ、

ようやくクラブ活動らしくなってきました。

実力はまだまだですが、今年は2チームが、関西最大の大会である「高校生ダンス・スタジアム」に出場し、うち1チームが2年ぶりの決勝進出を果たしました。残念ながらグランプリは逃がしましたが、練習場所や技術的指導者のない中、よく頑張ったと誇らしく感じております。

また、8月の最後の日曜日には京都市立大宮小学校からお招きいただき、地域の方々や小学生のみなさんにダンスのステージを披露させていただきました。300名を越える方々に集まって頂き、大変好評にうち終わることが出来ました。小学生のみなさんから頂いたかわいなお礼のお手紙に部員一同今までになかった感激とやりがいを感じているところです。

とはいえ、一番の活躍の場はやはり山城祭での発表で、今年も体育館を満員にするほど多くの生徒・保護者の方々に盛り上げていただきました。音響機材の扱いに不備があり、観客のみなさんをお待たせする場面がありました。来年以降の課題として更によりステージを作り上げるために頑張っていきたいです。

◆ 茶道部

茶道部は一時期休部状態になったときもありましたが、4年前から毎年新入生を迎え、現在の部員は、ブルネイからの留学生を含めて10名程度です。週に1度、お茶の先生にご指導いただいています。日頃の稽古の成果を発表する場として、毎年、文化祭では茶会を開いています。また、昨年度は、近畿高等学校総合文化祭京都大会に参加

しました。本年度も御香宮で行われる京都府高等学校総合文化祭に向けて稽古に励んでいます。
(顧問 安本聖子)

◆ 写真部

写真部は、私が山城高校に赴任した時にはありませんでした。N館階段下に旧写真部の暗室があると聞き、再興しました。その後、定時制が廃止となり、定時制写真部の機材も譲り受けやってきました。10人以上の部員がいた時もありますが、現在は3年生1名です。

主にモノクロ写真撮影、フィルム現像、印画紙焼付けをしています。モノクロ写真をしている他府県の高校も本当に少なくなって来ました。ところがモノクロ写真に執着する写真家もいます。デジタル写真の不完全さからフィルム写真に回帰した写真家もいます。モノクロ写真は約200年前の写真も現存しています。このモノクロ写真を、できれば残していけたらと考えています。お子さん、お孫さんに「山城高校で写真をやってみたら」とお声掛けをして戴ければと思います。よろしくお願い致します。
(写真部顧問 熊谷光倫)

◆ 山岳部

七年前に本校に転勤してきて顧問を引き継いだ時は、部員が男子一名だけで、部の存続がまさに首の皮一枚という状態でした。顧問と生徒の差し向かいで山登りというのではあまりにさびしいので、私の前の前任校の洛北高校山岳部と合同で活動していました。

この生徒が卒業し、部員がゼロになったのを機に部員獲得作戦に乗り出しました。まず、イラスト部の女子生徒に少女漫画タッチのポスターを描いてもらい、女子生徒をターゲットにして「温泉付き山登り」をキャッチコピーにして宣伝しました。これが功を奏して、その年に2年生女子生徒5人が入部し、2年後彼女らが卒業すると、それと入れかわるようにしてまた2年生女子生徒4人が入部し、再び2年後、入れ替わりに今度は1年生男子生徒3人が入部するというように、途切れることなく部員がつながっていき、今年度は部員10名(男子7名、女子3名)の大所帯になりました。初心者ばかりですが、歩くことをそれ程苦にせず、京都市内や滋賀の山はもちろんの事、六甲や遠く大

峰山系まで足をのぼし、「温泉付き山登り」を楽しんでいます。

(顧問 村山秀樹)

◆ ラグビー部

活動状況として、毎日の練習内容を紹介します。

月曜日 朝練習（30分程度）山城パス、ラグビー部オリジナルパスの基本練習プラスラグビー独自の動きづくり。

放課後は、学校正門スタート、原谷まで行き、御室の坂を下って学校正門まで戻るコースをタイムトライアル。その後タックル練習。

火曜日 朝練習はトレーニングです。タイヤ押し、ジャンプドリル、コンタクト等ラグビーで必要な筋力とスタミナ強化を目的とした内容です。放課後は、ラグビープレーの中心であるコンタクトフィットネスやハンドリングドリルを一時間程行い、残り一時間はウェートトレーニングをします。

水曜日 朝練習は月曜日と同じです。

放課後はグラウンドを使えるのが六時からのため、ミーティングを行い、小一時間程体幹トレーニングを行いグラウンドに出ます。

水曜日の夜はOB諸兄が集まり、現役の相手になってもらい実践的な練習をしています。

木曜日 朝練習は火曜日と同じです。

放課後はグラウンドスペースが四分の一のため、制限したコート中でのパス・コンタクト練習が中心になります。

金曜日 朝練習は月曜日と同じです。

放課後は火曜日とほぼ同じです。

土・日曜日は試合をするか、試合形式の実践練習をしています。休みは定期的に設定せず、状況に応じて適宜取るようにしています。

現在のラグビーの力はベストエイトボーダーライン上にあると思います。

◆ ハンドボール部

奇縁

昭和55年3月に竣工したW館は、本来予定した向きとは90度違

うし、位置もずれて居るのだと言う話を、竣工直後に、この山城高校で教員生活を始めた時に聞いた。その4階北端が会議室であり、E館1階に職員室から、S館かN館をぐるっと巡って更に最上階まで登らねばたどり着けないので、「なぜこんな場所に会議室が？」と尋ねた時に聞いた話。だから当時は結局、N館1階の化学実験室だかを会議室として代用していたのではなかったかしら。私は常勤講師として、入って出て、戻って、都合2度、計1年半、山城高校に勤め、もう縁は無いだろうと思っていた。

縁は奇縁、その後、私は府の教員に採用されて亀岡高校に赴任、7年で転勤を言われて帰って来たのが、三度目の山城高校。平成2年だった。

それから間もなくのことだったと思うが、多分、平成3・4年頃。記憶が定かではないのが申し訳ない。現在、北嵯峨高校在勤で、当時は聴障部担当だった川勝宏治教諭が、「ハンドボール部創立を」と願って希望者を募るなどし、それを承認するか否かが職員会議の議題となった。手続き上、創部を認めるべきだが、生憎、本校のグラウンドにも体育館にも「空き」が無い。よって、何処か外部に練習場所を確保することも含め、顧問が全責任を負う事（顧問が転勤する場合、部は消滅という条件もあったのではなかったかしら）を条件に創部が認められるまでには多少時間がかかったと記憶する。もちろん、それは意地悪とかではなく、校外でのみ活動せざるを得ないものを「部活動」として認める事の是非が論議されたから。

これも奇縁だが、私は最初の山城勤めの時から剣道部顧問を仰せつかり、ある日の練習で、御室辺りを走る付き添いに行くついでに御室の聾学校グラウンドでハンドボール部が練習しているから様子を見て来てくれと、その川勝教諭に頼まれた。彼は出張か何かで不都合だったのだろう。

晩秋とて釣瓶落の夕暮れ、既に薄暗い、照明も無い、（狭く、周囲は草むらに見えた）その場所で僅かな人数の部員がひっそりと練習していた風景は、妙に深く心に沁みた。

その後、あれこれあって校舎も建て替わり、W館の東側、寝殿造り遺構の一部だったという倉庫跡の保存の爲、その場所が「憩いの広場」

なる日本庭園になる筈が、土を被され、人工芝（倉庫跡を示すため、一部が色違い）を貼った、運動も可能になった（そうなるようご尽力下さった方々、深謝）。ちょうど、聾学校の方から、「ウチで使うから」と言われ、練習場所を失っていたハンドボール部にとっては渡りに船で、これを、ほぼ専用の練習場所として頂戴した・・・と聞く。体育館も、グラウンドも、複数の部が輪番で使う山城高校で、専用の場所がある、唯一の部になった。不思議な経緯と結果。

「コートとは言っても、縦横とも寸たらずで、剥がれ易い人工芝」と不平を鳴らすのは、山城高校ハンドボール部の苦難の歴史を知らないからだ、と、説教などするようになって4年目。その自分自身も、かつて、W館の向きが変わったの、位置がずれたのと言いながら、この場所が自分に深くかかわる場所になるなど想像だにできなかったが、コートに立てば、あの黄昏の風景の中で練習していた昔の部員を懐かしく思い出す。やっぱり何か縁があったのかしらと思ひもする。

残念ながら女子部は部員の減少で消滅し、残る男子部も、近年、府下大会でも初戦突破が難しいけれど、部員の減少で部の消滅する学校が増える中、多い時は40名近くも居て、彼らが嬉々として練習に勤しむ風景は、あの「ひっそり」とは一転、滅多に無い壮観。それもこれも、創部から今日まで、関わってくださった方々あればこそ。深謝。現部員、頑張っています。

（顧問 中村 弘通）

◆ イラストレーション部

マンガ甲子園に出場しました。詳細は次ページの新聞をご覧ください。



まんが甲子園出場の山城高



「まんが甲子園」を振り返るイラストレーション部の部員たち（27日、京都市北区・山城高）

敗者復活から特別賞

京都市北区の山城高イラストレーション部が、高知市でこのほど開かれた第19回全国高校漫画選手権「まんが甲子園」（高知県など主催）で審査委員長賞に選ばれた。5年ぶりの出場で、敗者復活から見事に、初めての入賞をつかった。

出場したのは、部長の大西捷太君（17）、柳麻菜さん（18）、井上遥香さん（17）、西加奈恵さん（17）の4人と、伊藤万里子さん（17）の5人。

選手権は今年7、8日に開催され、全国280校から選ばれた30校が出場した。特定のテーマが与えられ、その場

5人一丸描き切る

で5時間半の制限時間で描いた漫画が審査される。

同部は予選で敗れたが、敗者復活戦で決勝進出の20校に入った。決勝のテーマは「あしたの〇〇」。事前に公表されていたうちの一つだったが、アイデアは固まっていなかった。ほかのチームが早々に絵を描き進める中、本音をぶつけ合いながらネタ作りに



審査委員長賞に輝いた決勝の作品

2時間半を費やし、3時間で一気に描き切った。

「決勝は明るい作品にしたかった」と、大人の結婚式が行われている教会を背景に、男の子が「あしたの花嫁」の女の子に花の冠を載せる「コマを温かいタッチで描いた。審査委員長賞は1、3位のほかに選ばれる六つの特別賞の一つ。審査委員長の「アンパンマン」作者、やなせたかしさんは「この作品だけせりふがない。せりふがなくてわかる。マンガは本来そういうもので、国境を越えて理解される作品だ」と評価した。

大西部長は「賞がもらえるとは思ってなかったので、びっくりした。チームワークで乗り切れた」と笑顔で振り返った。

（梶井進）